

2014年3月20日

日本英文学会事務局御中

「海外研究者招聘後援事業」申請書

事業：国際学会“Romantic Connections”

(学会 HP: <http://www.romanticconnections2014.org/>)

日程： 2014年6月13日(金)～15日(日)

開催地： 東京大学文学部(本郷キャンパス)

主催：「国際学会“Romantic Connections”」運営委員会

委員長：スティーヴン・クラーク(東京大学)

副委員長：大石和欣(東京大学)

委員：アルヴィなほ子(東京大学) 小川公代(上智大学)、和田綾子(鳥取大学)

アレックス・ワトソン(日本女子大学)、デイヴィッド・チャンドラー(同志社大学)

ローレンス・ウィリアムズ(日本学術振興会特別研究員・東京大学)

田代尚道(大妻女子大学)、トリスタン・コノリー(カナダ・ウォータールー大学)

共催：North American Society for the Studies of Romanticism (NASSR)

後援：イギリス・ロマン派学会(JAER)

British Association of Romantic Studies (BARS)

Gesellschaft für Englische Romantik (The Society for English Romanticism, Germany)

テーマ：ロマン主義文学およびロマン主義時代における「絆」

過去20年のあいだ、ヨーロッパにおけるロマン主義とそれ以外の諸地域における人びとや文化、文学との接触やについて学術研究が進められてきた。ロマン主義時代の作家や詩人たちによる「オリエン」の表象についての議論のみならず、近年ではロマン主義そのものをグローバルな文脈でとらえようとする動きが高まっている。交易、移民、物流、知的な交流、奴隷貿易、植民地主義といった18世紀から19世紀にかけてのより広範囲な力学を考慮してロマン主義を再吟味する必要がでてきている。

この学会は、そうした学術的動向を踏まえて、サイドのいう「オリエンタリズム」を軸にして展開されたポスト・コロニアリズム研究の遺産を受け継ぎながらも、「支配」や「従属」といったモデルを読みかえ、批判する新たな異文化間交渉研究のモデルを構築することを目的とする。文学テキストのみならず、言語学、社会史、科学、経済、政治といった領域との接続も試みる研究発表や講演を予定している。北米ロマン主義学会(NASSR)との共催事業であると同時に、日本のイギリス・ロマン派学会、英国ロマン主義研究学会、独国イギリス・ロマン主義学会などの後援事業として世界中からの研究発表者を予定している。

日本で開催する意義として、東洋と西洋とのつながりと文化交渉という枠組みを提示し、ロマン主義文学を再検討する機会を提供すると同時に、2011年の東関東大震災の際にキーワードとなった「絆」を文学研究として捉え直すという意義がある。震災時においては「絆」は人的なつながりが中心であったが、本学会ではそれを文化的な意味にも敷衍させ、ロマン主義時代のテキストや文化を支えた言語や経済、政治的なネットワークまで包摂した「つながり」を考察する予定である。

日本やアジア諸国におけるロマン主義時代の文学受容まで本学会の研究発表に含むことで、これまでのヨーロッパ中心のロマン主義研究に新しい光を照射し、斬新な解釈を全体として提示できればと希望している。

内容：ロマン主義時代の文学および文化事象を、人的交流から政治・経済的な文脈から多角的に照射し、「絆」や「交渉」の位相を浮びあがらせる。

基調講演者：6名(外国人5名、日本人(日本英文学会会員)1名)

研究発表者：103名(日本英文学会会員20名[日本人13名、外国人7名]、それ以外83名)

上記以外の参加者50～100名程度を予想している。日本人参加予定者の多くが日本英文学会会員であると考えられる。

(1) 海外からの基調講演者 5 名の講演タイトルと主要業績

James Chandler (University of Chicago) “De Quincey and the Opium Wars”

(ed.) *The New Cambridge History of English Romantic Literature* (Cambridge University Press, 2008).

England in 1819: The Politics of Literary Culture and the Case of Romantic Historicism (University of Chicago Press, 1998).

Wordsworth's Second Nature: A Study of the Poetry and Politics (University of Chicago Press, 1984).

Angela Esterhammer (University of Toronto) "Epistolary Connections: How to Do Things with Letters in Romantic Fiction."

Romanticism and Improvisation, 1750-1850. Cambridge: Cambridge University Press, 2008.

Spontaneous Overflows and Revivifying Rays: Romanticism and the Discourse of Improvisation. Vancouver: Ronsdale Press, 2004.

The Romantic Performative: Language and Action in British and German Romanticism. Stanford University Press, 2000.

Peter Kitson (University of East Anglia) “Silent Travellers: Chinese Visitors and Chinese Collaborators”

Forging Romantic China: Sino-British Cultural Exchange, 1760-1840 (Cambridge University Press, 2013)

Romantic Literature, Race, and Colonial Encounter (Palgrave, 2008)

(co-ed with Tim Fulford) *Romanticism and Colonialism: Writing and Empire, 1780-1830* (Cambridge University Press, 2005)

Jonathan Lamb (Vanderbilt University) “Tattooing and Cross-cultural Confrontation in the Pacific”

Scurvy: The Disease of Discovery (Princeton, 2012)

The Things Things Say (Princeton, 2011)

The Evolution of Sympathy in the Long Eighteenth Century (Pickering and Chatto, 2009)

Christoph Bode (LMU Munich) “Byron's Dis-orientations”

Ästhetik der Ambiguität: Zu Funktion und Bedeutung von Mehrdeutigkeit in der Literatur der Moderne (Max Niemeyer Verlag, 1988)

John Keats: "Play On" (Universitätsverlag C. Winter, 1996)

The Novel: An Introduction (Wiley-Blackwell, 2011)

(2) 申請者

大石和欣「国際学会“Romantic Connections”」運営委員会副委員長（東京大学）

アルヴィなほ子「国際学会“Romantic Connections”」運営委員会委員（東京大学）

小川公代「国際学会“Romantic Connections”」運営委員会委員（上智大学）

(3) 海外から招聘する 5 名の基調講演者の以下の経費を委員会が負担する。

宿泊費 17,850 円×4 泊×5 名=351,600 円

登録参加費 12,000 円×5 名=36,000 円

航空券 (300,000 円) ×4 名=1,200,000 円のうち、本後援事業の助成金を差し引いた費用全額。(ただし、Prof. Christoph Bode についてはドイツ・ロマン派学会より旅費を拠出予定。)

資金的には極めて厳しい状況のためぜひとも日本英文学会の後援をいただきたく、ここに申請させていただきます。日程的には迫っていますが、ポスターの作成は 5 月半ばを予定しております。本後援事業に採択となりましたらすぐにそれを記載したポスターを作成・配布し、ウェブサイトにもその旨明記したいと思います。

「国際学会“Romantic Connections”」運営委員会副委員長
大石和欣